

第19回「食」と「漁」を考える地域シンポジウム

# 太平洋サンマの資源動向と来遊予測 ～サンマ水揚でめざそう！三陸のさらなる復興～

共催： 気仙沼漁業協同組合・気仙沼水産復興グループ運営会議・  
一般財団法人東京水産振興会・一般社団法人漁業情報サービスセンター

後援： 気仙沼市・気仙沼商工会議所・全国さんま漁業協会・  
北日本漁業経済学会

■と き： 2013年8月7日（水）14：30－17：30

■ところ： 気仙沼市魚市場3階会議室  
（気仙沼市魚市場前8の25 電話 0226-23-3400）  
コーディネーター：二平 章（漁業情報SC・茨城大学地総研）

## プログラム

主催者挨拶 14：30－14：40  
渥美雅也（東京水産振興会専務理事）

来賓挨拶  
菅原 茂（気仙沼市長）

開催趣旨説明 コーディネーター

## ●現地特別報告

気仙沼水産業の復興状況と受入体制 14：40－14：55  
佐藤亮輔（気仙沼漁協代表理事組合長  
・気仙沼水産復興グループ運営会議代表）

## ●話題提供

1. 公海における外国船の漁獲量増加とサンマの資源動向 14：55 - 15：25  
小林 喬（元・釧路水産試験場）
2. 耳石日輪が解き明かす太平洋サンマの生態 15：25－15：55  
巢山 哲（水産総合研究センター東北水産研究所）
3. 漁期前調査からみた今期のサンマ来遊予測 15：55 - 16：25  
渡邊一功（漁業情報サービスセンター）

●パネル討論 司会：二平 章

16：30－17：30

「ロシアおよび台湾のサンマ事情」

ウラジミール・ツルポフ（ロシアサブサングループ・アジアパシフィック）

小林 喬（元・釧路水産試験場）

巢山 哲（東北区水産研究所）

渡邊一功（漁業情報サービスセンター）

■開催趣旨■

道東太平洋の初漁期サンマ漁は過去3年間、連続して不漁に見舞われ、サンマの流通経済にも大きな影響を及ぼした。不漁の要因として、道東の表層高水温がサンマの来遊をさまざまたげたとする説、前年の中小型サンマの漁獲や、公海での台湾船の漁獲増が大型サンマの資源減少をもたらしたとする説、気候・海洋の中長期的変動の影響を受けてサンマが不漁期に入りだしたとする説などが取りざたされている。

そこで、本シンポでは、近年、進展してきたサンマの新たな研究成果の紹介、戦後のサンマ漁からみた豊凶現象と漁獲管理のあり方、そして今期の漁期前調査からみた来遊予測などを紹介していただきながら、サンマ資源の動向と持続的利用方策について議論したい。

■シンポ参加自由・先着100名■

■宿泊■ 各自でご予約ください。（気仙沼観光コンベンション協会会員宿泊施設一覧参照）

■シンポ参加申し込み先■

気仙沼漁業協同組合（熊谷成一）

電話：0226-23-3400 FAX：0226-23-3406

東京水産振興会（松田倫子）

電話：03-3533-8111 FAX：03-3533-8116 E-mail：tkyfish@blue.ocn.ne.jp

■参加申込書■ 下記ご記入の上、上記申込先のいずれかにファックスでお送りください。

氏 名	所 属